

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 北九州市 】

学校名【 北九州市立中井小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	116名 (5年生 86名 4年生 30名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合, 道徳) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。 車いす競技の選手の方の話を聞いたり、競技用車いすの使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>「車いすソフトボール日本代表選手 スポーツ講演会」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月4日(木)に車いすソフトボール日本代表の選手、北九州大学教授、大学生にお越しいただき、講演会を行った。 <p>講演会の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I部 講演会 ・ II部 車いす体験 <ul style="list-style-type: none"> ①車いすリレー (全員参加) ②キャッチボール, バッティング, ノック体験 (代表児童) ②車いすソフトボール試合 (代表児童) <p>障害者と健常者 (大学生・小学生) の男女が混じったチームで試合を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習として車いすソフトボールの学習を行った。 ・ 事後指導として講演会を振り返っての感想文を書いた。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの歴史や車いすソフトボールの世界での普及の様子、日本での活動の様子などを聞き、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めることができた。 ・障害者と健常者が同じルールで行う競技があることを知り、障害をもった方たちも、同じ社会の中で生き生きと生活していることに気づくと共に、障害者の方とも積極的に関わろうとする意識を育むことができた。また、障害者の方や大学生と一緒に競技を行うことで、インクルーシブな社会を構築する資質を育むことができた。 <p>〈児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、車いすソフトボールがしょうがい者も、しょうがいでない人も、いっしょにできるスポーツだと初めて知りました。いつもは「オリンピック」と「パラリンピック」で分けられているけど、ソフトボールは平等にできるので、いいなと思いました。今回実際に競技の体験をしたので、次回のオリンピック・パラリンピックは、パラリンピックにも注目して見てみたいです。 ・ぼくは、自分の方に打ってくれるゴロをとるのに精一杯だったけど、日本代表の選手は、3m以上離れていても、最短でボールをとっていかっこよかったです。バッティングもしょうがいがあるんで片手で打っていて、苦労して練習を積み重ねたのだと思います。今日の体験を通して、ぼくも辛いことがあったとしても、努力して、好きなことに打ち込める人になりたいです。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○取組を講演会のみで終わらせないように、事前学習や事後の取組、各通信を通じての保護者への周知、校内掲示を行った。 ○北九州市立障害者スポーツセンターと連携し、競技用車いすを10台借用し、多くの児童に体験活動をさせた。 ○北九州市立大学とも連携し、大学生にも来校してもらい、準備・片付け、体験活動のサポートをしていただいた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教師主導から、児童会を中心とした、より児童主体の取組への移行。 ○アスリートの依頼。 ○パラリンピック競技の道具の準備。 ○どの施設・学校にどんな道具があるのか、また各校で行った取組を共有することによる、知識・ノウハウの相互伝達。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜授業や、総合の時間の活用、また道徳や教科の学習の中に取り入れていくことにより、2020東京オリンピック・パラリンピック開催以降も、継続して取組を続けていく。 ○外部講師や講演会から学んだことを、発表する場を設けるなどして、児童主体で学びを継続していきことができるように計画していく。